

件名	榎が丘小学校建替え工事に伴う設計業務委託
----	----------------------

事務所の商号又は名称	株式会社 濱田慎太建築事務所
------------	----------------

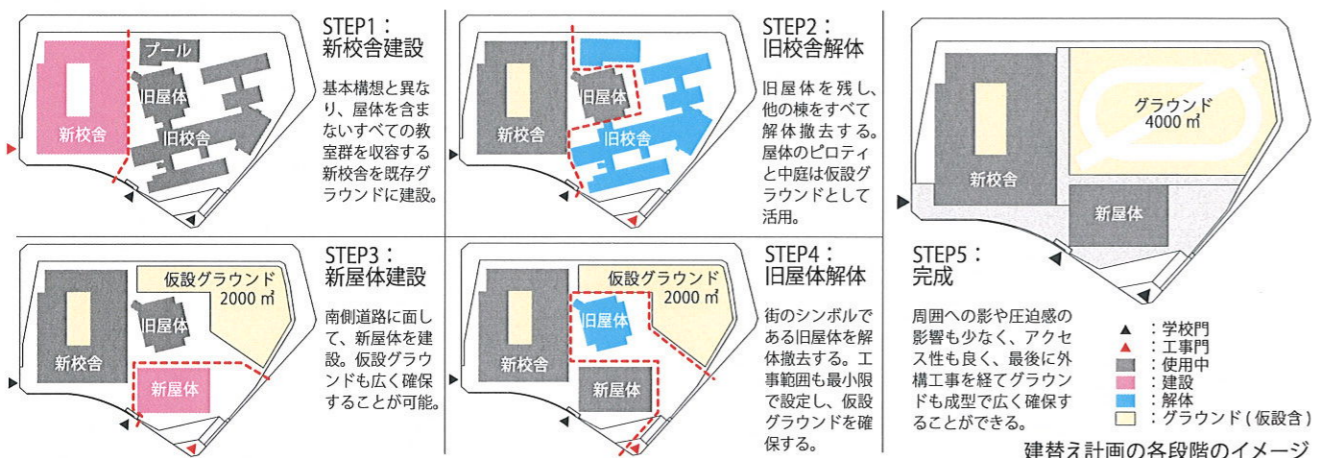
集まり、つながる、学びの輪

長く育まれてきた地域とのつながりを次の時代にも継承し、これまでの赤い屋根のように街の風景にも貢献できるような新たな小学校の形を提案します。シンプルで使いやすい回遊性のある校舎の中に、地域利用・学校開放ゾーンを明快に組み込み、新たな地域利用の拠点となる「コモンテラス」と連携して街に新たな賑わいを創出します。学校と地域が一体となって子どもたちを育てていくような環境づくりを通じて、地域と共にあるこれからの小学校の形を提案します。

(1) 工事中の安全・学校運営への配慮についての提案

検討案の課題解決のために工事計画の一部を修正

基本構想案の課題として、北側近隣への日影や圧迫感、西側近隣への騒音、引越しによる負担、工事車両の動線等への対策が不可欠であると考えました。そこで私たちは、STEP2で既存体育館を残し、すべての教室群を最適な形で建設する計画を提案します。そうすることで引越しによる運営側や児童への負担は大幅に軽減し、近隣への影響や工事中の安全性にも配慮します。敷地中央に位置する既存体育館は街のシンボルでもあるため、長く残すことで地域にも配慮し、体育館下のピロティは仮設グラウンドとしても活用できます。工事中の動線はすべて既存の門を活用し、工事区画も南側道路の近くに確保できるため高い安全性を確保しつつ、STEP3の規模縮小やエキスパンションジョイントのない計画による工期短縮やコスト削減も期待できます。



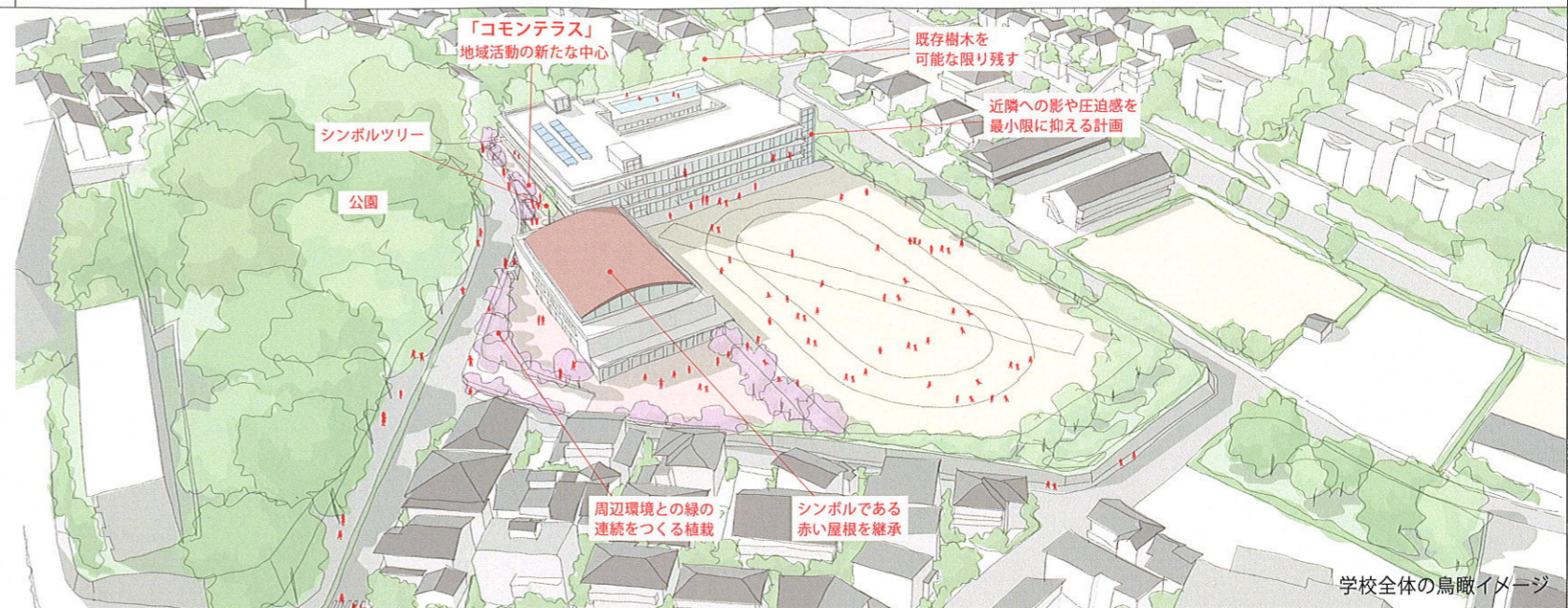
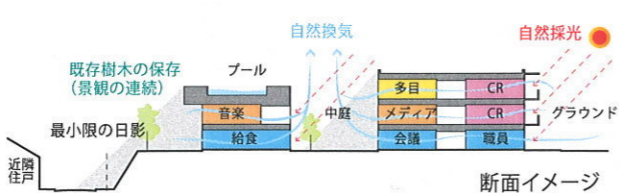
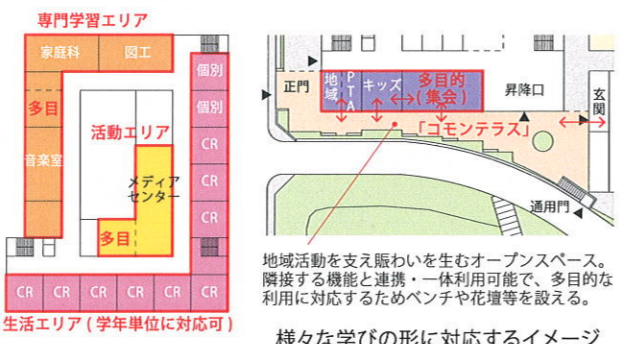
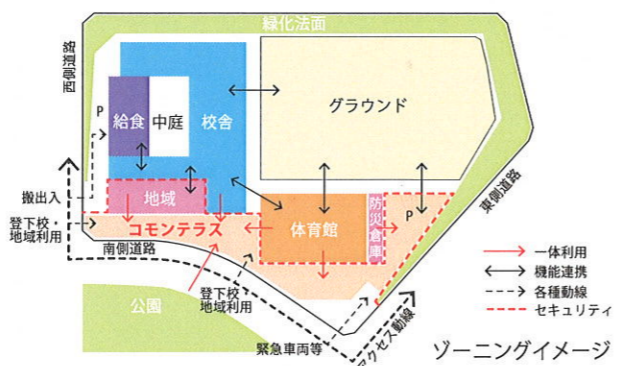
(2) 施設計画及びコスト削減の考え方についての提案

① 地域とつながるコンパクトで快適な施設構成

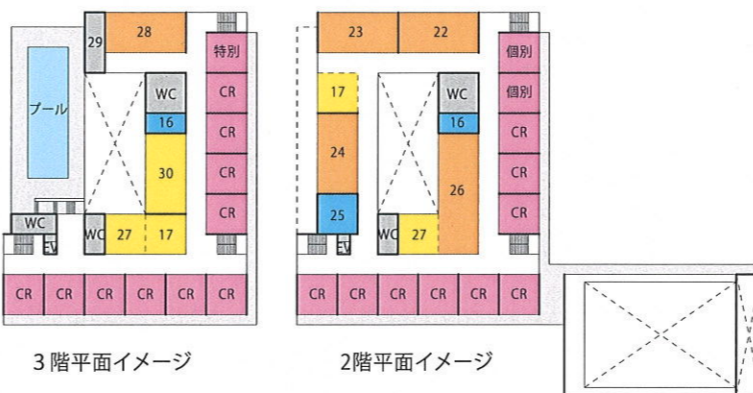
工事計画を修正することで校舎棟を最適な条件でコンパクトに計画でき、中央に大きな中庭を持つ、快適で回遊性のあるループ形状の校舎棟が出来上がります。大きな中庭は自然採光・自然換気に活用することで校舎内を快適に保つだけでなく、工事中の仮設グラウンドとしても機能します。さらにアクセシビリティやセキュリティに配慮して地域利用ゾーンをまとめて配置し、隣接して誰もが気軽にアクセスできる「コモンテラス」を設けることで、地域にとっても利用しやすく、学校にとっても安心・安全な開かれた学習環境を実現します。

② 様々な学びの形に対応する柔軟な空間構成

学校の中心である2階中央部分に、図書館・PC教室を一体にし、これからのメディア教育に対応した「メディアセンター」を提案します。そして各教室群は特徴に応じてエリア毎に整理し、互いの機能連携に配慮しながらそれぞれ最適な環境に配置します。そして多目的室群をエリア毎に分散配置することで、各エリアの補助的な役割を果たします。また多目的室(集会)をキッズと隣接させて活用するだけでなく、「コモンテラス」とも隣接することで地域利用にも活かせる計画とします。さらに体育館はグラウンドに面して開放でき、運動会等のイベント時には一体で利用できます。学校全体がコンパクトでありながら非常にシンプルで柔軟な構成にすることで、様々な学びの形に対応でき、さらに将来の改修や用途変更にも容易に対応可能な、次世代の小学校を実現することが可能です。また、災害時にも避難施設としても活用しやすいように、様々なシーンを想定した計画とします。



普通教室	01 保健室	11 変電室	21 屋外付帯(防災倉庫)
特別教室	02 保健相談室	12 会議室	22 図工室・準備室
多目的室	03 校長室	13 事務室	23 家庭科室
管理諸室	04 放送室	14 多目的(集会)	24 音楽室
	05 印刷室	15 教育相談室	25 給食機械室
	06 耐火書庫	16 教材教具庫	26 メディアセンター
	07 技術員室	17 多目的室	27 多目的(少人数)
	08 倉庫	18 児童更衣室	28 理科室・準備室
	09 職員更衣室	19 PTA 会議室	29 プール付帯
	10 和室	20 地域交流室	30 多目的(水廻り)



③ コスト削減と施設の長寿命化を実現する方策

建物をコンパクトにし、工事工程の複雑さや安全対策を見直すことで建設コストを削減します。また建築形状を活かした環境負荷軽減メニューを検討し、コストや効果の比較検討を重ね可能な限り実現することでランニングコストにも配慮します。建物全体としてはCASBEE-Sランク取得を目指します。

- イニシャルコスト削減・・・PCa化を検討し、工期短縮と躯体の高品質化・長寿命化を図ることでLCC、LCCO2の削減を図ります。
- ランニングコスト削減・・・パッシブとアクティブ手法を効率的に組合せ、建築形状を活用した環境負荷軽減対策を検討・採用し、それを環境教育の教材としても活用できるように計画します。太陽光発電、太陽熱給湯、階段室の自然換気を活かしたソーラーチムニー、ナイトバージ、授業にも活用できる屋上緑化、学級菜園を兼ねた緑化カーテン、雨水の中水・散水利用、高効率機器、各種センサー、落下防止策等の効果を比較検討し、予算の範囲内で導入を検討。
- 将来の更新性を考慮・・・設備機器の更新だけでなく、将来の改修、用途変更にも容易に対応できる構造計画を検討します。

(3) 業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制についての提案

関係各所との調整で与件を正確に把握し、さらに意匠・構造・設備・積算での設計会議を定例化することで、品質管理とコスト管理を徹底します。設計チームは市内小学校の実績を持ち、これまでの知見を活かして行政、学校側、市民との調整を密に図り、さらに新たな技術提案も積極的に図りながら、新たな基準となるような、次世代の小学校建築の実現を目指します。

